

令和2年度

社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団

事業計画書

令和2年3月

社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団

理 念

私たち

社会福祉法人倉敷市総合福祉事業団は
保健や福祉のサービスを通じて、
暮らしやすい地域社会の創造に貢献する
とともに、すべての人が安心・充実した
生活を送れるよう支援します。

基本方針

- 1, 人権を擁護し、法令を遵守した運営を行います。
- 2, 公益性・公平性・効率性を重視した運営を行います。
- 3, ひとりひとりに安心と満足のできるサービスを提供します。
- 4, 暮らしやすい地域社会を創造する活動に積極的に参加します。
- 5, 保健・福祉の拠点として柔軟性と機動力を備え、先進的な取り組みに挑戦します。
- 6, 保健福祉のプロ集団として豊かな創造力と熱い情熱を持って業務を行います

目 次

【事業計画】

令和2年度社会福祉法人倉敷市総合福祉事業団事業計画	1	
1. 経営企画室	2	
2. 暮らしき健康福祉プラザ管理業務	3	
3. 保健福祉相談室	5	
4. 倉敷ファミリー・サポート・センター	7	
5. 健康増進センター	8	
I 健康づくり事業	8	
II 介護予防事業	11	
III 倉敷市真備健康福祉館	13	
6. 子育て支援センター	16	
I 子育て支援事業	16	
II 感覚相談事業	19	
7. 倉敷市障がい者デイサービスセンター	21	
8. 倉敷市憩の家	24	
9. 倉敷障がい者就業・生活支援センター	26	
10. 倉敷市ふじ園	28	
11. 倉敷市老人福祉センター	31	
I 西岡荘	32	
II 有城荘	33	
III まきび荘	34	
12. 倉敷市児童館	35	
倉敷児童館	倉敷北児童センター	水島児童館
児島児童館	玉島児童館	真備児童館
13. 倉敷市障がい者支援センター	38	
児島障がい者支援センター	玉島障がい者支援センター	
水島障がい者支援センター		
14. 在宅福祉課	41	

令和2年度社会福祉法人倉敷市総合福祉事業団事業計画

当事業団は、昭和47年に倉敷市の社会福祉施設の管理運営を目的として設立された社会福祉法人です。設立以来48年経過し、その間運営する施設や実施する事業の内容は、福祉ニーズの多様化や福祉制度の改正により様々な変遷を遂げてまいりました。

平成24年度以降、経営体制や財政基盤の強化等を目的とした中期経営計画及び実施計画に基づき様々な取組みを継続して進めてまいりました。今年度も実施状況や進捗状況を把握・検証しながら、着実に進めてまいります。

また、世界的な新型コロナウイルス感染症の広がりにより、先行きが見通せない状況が続いております。事業団においても行事の中止や事業の休止等、管理施設・事業に影響が出ておりますが、策定したBCP（事業継続計画）を実行し、また随時、見直しを行ない利用者の安全・安心を最優先とした事業運営に努めているところです。

一昨年、西日本豪雨によって被災し、真備保健福祉会館を間借りして運営しておりました「真備児童館」は、令和2年3月22日より元の場所で事業を再開することができました。また本館隣のプレハブで事業を再開しております「真備健康福祉館」は、令和2年度で開館10年目を迎えます。本来であれば指定管理契約更新の年となりますが、この度、1年間契約期間が延長されることになりました。令和4年度以降も指定管理者として選定していただけるよう、利用者の皆様に喜んでいただける施設運営に努めてまいります。

次に、令和2年1月から始まった総合福祉会館の建て替え工事ですが、現在、別館の「倉敷児童館」の解体工事が進んでいます。そのため「倉敷児童館」は、総合福祉会館1階（旧くすのき園）で事業を実施しています。秋には総合福祉会館の西側「有城荘」部分の解体工事も予定されております。なお、「有城荘」は当面残る建て替え前の本館3階で事業を継続する計画です。

そして、そのほかの指定管理事業、くらしき健康福祉プラザ等での受託事業、訪問介護等を行う自主事業については、本事業計画に基づいて事業を実施し、市民や利用者に対して利便性や快適性を一層高め、質の高いサービスを提供できるよう努めてまいります。

今後とも、関係各位の御指導と御協力をいただきながら、市民福祉の向上と健康の増進のために事業に取り組んでまいりますので、一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

令和2年3月25日

社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団
理 事 長 山 崎 要

経営企画室は、事業団を取り巻く環境変化に対応するため、平成22年度に設置されました。これに伴い、同年度に人材育成計画・職員研修計画、平成23年度には中期経営計画、平成24年度では中期経営計画に基づく実施計画を策定しました。その後、平成27年度で人材育成計画の改訂版、平成28年度で中期経営計画の改訂版、平成29年度で中期経営計画の改訂版に基づく実施計画を策定しました。

引き続き、これらの計画を実施し、経営基盤の強化に向けた取組みを進めます。

〔主な事業内容〕

(1) 中期経営計画及び人材育成計画の進行管理

平成29年度に策定した中期経営計画の実施計画を進めていくことで、経営基盤の安定と組織の柔軟性を確保し、進行管理を行うことで実施計画の実効性を高めます。

また、人材育成計画を着実に実施することによって職員の資質の向上を図り、質の高いサービスの提供に努めます。

(2) 人材育成計画の検証及び次期計画の策定

現計画は、平成28年度から令和2年度までとなっており、今年度が最終年度に当たるため、この5年間を総括・検証し、次期人材育成計画を策定します。

(3) 職員研修の実施

「人材育成計画・職員研修計画」に沿って職員研修を体系的・計画的に実施します。

〔目指す職員像〕

- ア 利用者サービスの向上に常に取り組む職員
- イ 意欲と行動力のある職員
- ウ 人権意識と倫理観を持ち、利用者に信頼される職員
- エ 幅広い視点から改善・革新ができる職員

(4) 委員会の開催

ア 運営検討委員会

自ら改革に取り組み、社会・地域の要請に応える事業を展開し、安定的・継続的な経営を実践していくための方策を調査・検討する運営検討委員会を開催します。

イ 苦情解決運営委員会

事業団の施設運営や事業に対する利用者からの苦情内容を集積・分析し、より良いサービスの提供に向けて活用するため、苦情解決責任者、第三者委員（人権擁護委員、保護司、民生・児童委員）等で構成する苦情解決運営委員会を開催します。

(5) 職員専用ページの充実

サービスの質の向上と均一化や業務の効率化を図るため、マニュアル、規程集、申請書等の情報をデータベース化している職員専用ページの充実に努めます。

2. くらしき健康福祉プラザ管理事務所

総務課

指定管理者として、くらしき健康福祉プラザの貸出施設の使用の許可並びに施設設備の維持管理業務（デイサービスセンター，保健所を含む）を，倉敷市総合福祉事業団とクラレテクノ株式会社が，平成21年度から共同事業体として運営しており今年度は平成30年度からの指定管理期間の最終年度になります。

これまで培ってきた事業団の保健福祉サービス提供力とクラレテクノの施設・設備のメンテナンス技術力等のノウハウを結集して円滑に業務を遂行し，くらしき健康福祉プラザが，保健福祉施設として効率的・弾力的で，施設利用者に安全・安心と満足感を感じていただける施設となるよう，事業団とクラレテクノが一体となって実現します。

さらに，施設の管理及び運営においては，プラザ内で事業団が実施している保健福祉事業や他の類似施設との連携を密にすることにより，センター・オブ・センターとしての機能を最大限発揮するよう努めます。

〔主な事業内容〕

(1) 下記施設の利用の許可

プラザホール，工芸室，視聴覚室，調理室，研修室（4室），和室研修室，体育館，水浴訓練室，屋外区画（2区画）

施設の開館日数と利用時間等の拡大を引き続き実施します。

（月曜日以外の祝日法に規定する休日（元日は除く。）を開館，8時30分からの利用時間延長，101・102研修室の23時までの利用時間延長，101・102研修室の休館日の利用）

(2) 施設及び設備の維持管理（デイサービスセンター，保健所を含む。）

(3) 自主事業

ア プラザ壁面スペースの高齢者や障がい者，各種団体の作品発表などへの提供を継続します。

イ 「くらしき健康福祉プラザまつり」を開催します（11月3日（土：文化の日）予定）。

ウ 利用団体専用の広報用掲示板の設置を継続します。

エ 障がい者の自立支援等のため，プラザ1階に開設した「手作り品展示販売コーナー」の運営を継続します。

オ 男性料理教室，様々な人を対象とした料理教室の開催を継続します。

カ 貸室予約の利便性向上のため，システムを活用したホームページでの空き状況の公表を継続し，インターネットからの予約についても実施について検討を行います。

キ 災害対応型自動販売機の設置の継続や非常用の物品の備蓄を行い，地域防災の強化を図ります。

ク プラザ内の階段等へ表示している消費カロリー表により，市民の健康づくりの支援を継続します。

ケ 駐車場不足解消のため，民間駐車場の借上げを継続します。

コ 市民の健康づくりを支援するため，ウォーキング講座を開催します。

サ 避難訓練

区 分		H30年度実績	R1年度見込	R2年度目標
一般利用	人数	35,989人	37,000人	40,000人
	料金	4,303,785円	3,950,000円	4,500,000円
減免利用	人数	121,474人	135,000人	135,000人
	料金	10,746,350円	11,950,000円	11,900,000円
合 計	人数	157,463人	172,000人	175,000人
	料金	15,050,135円	15,900,000円	16,400,000円

※新型コロナ対応

令和元年度見込合計 3,000人 500,000円下方修正済

3. 保健福祉相談室

健康福祉課

高齢者、障がい者その他の市民に対する保健福祉に係る相談事業、福祉用具等展示事業及び保健福祉関係の図書、資料等による情報提供事業を行い、市民の保健福祉の向上を図ります。

福祉用具等展示事業では、高齢者や障がい者が住宅生活を営む上で、必要な用具等の知識が得られることを目的として、介護用品、福祉用具及び住宅改造モデルの展示を行い、見学や情報提供等を通じて、市民の生活の質の向上を目指します。

〔主な事業内容〕

(1) 保健福祉相談事業

ア 保健福祉に関する一般的初期相談を行うとともに、相談内容に応じ専門的相談窓口等の情報を提供します。

イ 手話通訳者を配置して、聴覚障がい者のくらしき健康福祉プラザ及び保健所等での相談や各種手続きの支援、プラザで行われる倉敷市障がい者デイサービスセンターの講座、子育て支援センターの行事、感覚矯正事業の見え方の相談や言語訓練及び倉敷障がい者就業・生活支援センターの相談などでの支援を行い、聴覚障がい者の社会参加を促します。

また、玉島及び水島の障がい者支援センターへ月2回出張して、相談者の支援を行います。

(2) 福祉用具等展示事業

ア 常設展示コーナーでは、超高齢社会と言われる現代において、老老介護での介護負担を軽減するような移動用リフト、電動車椅子、自動採尿器等、各種介護用品や福祉用具を200点余り展示し、来場者が体験を通じて在宅での生活に活用できるよう助言を行い、最新の情報を提供します。

また、健康な人にもいろいろな障がいを想定した体験により、障がいがある人や高齢者の実生活について理解を深められるよう支援します。

福祉用具の特設コーナーでは、話題の用具や新製品を展示することで市民への情報提供に努めます。展示品はテーマを決めて3か月毎に入れ替えを行います。

住宅改造モデルコーナーでは、高齢者、障がい者等が、在宅での日常生活を営む上で必要な住宅改造等の知識が得られるよう、実生活をイメージした体験を通じて、説明や情報提供を行います。

イ 福祉用具特別展を年2回開催し、専門家によるミニ講座を開くなど、より多くの福祉用具の情報を提供します。

ウ 市内の小・中学生を対象にして夏休み期間中に、プラザバリアフリー探検・福祉用具体験教室を10回開催します。同教室を通じ小中学生に福祉に理解を深めてもらえるよう、一層の広報活動を行います。関連して、随時に学習のための体験もサポートします。

エ 児童館・児童センターにおいて、地域の児童等に福祉用具体験の出前教室を行います。また、地域に出向き福祉用具展示相談会を行います。

オ 高齢者疑似体験セットを市内の小・中学校，施設，団体，個人等に無料貸出を行い，参観日等の学習や企業の研修会，高齢者施設，病院の職員研修等における有効活用を促進します。

(3) 情報提供事業

図書・資料室において，保健福祉に関する図書，資料等を収集し閲覧に供します。

また，保健福祉に関する最新のパンフレット，チラシ等の資料を収集，整理し，情報提供を行います。

「保健福祉相談室だより」を年4回発行し，保健福祉相談室のPRを行うとともに，事業や福祉用具等の新しい情報を発信します。

保健福祉相談室利用者数

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標	
相 談 事 業	保健福祉相談(人)	2,196人	2,300人	2,370人	
	主 な 相 談	児童福祉関係	72件	60件	60件
		高齢福祉関係	1,418件	1,400件	1,500件
		障がい福祉関係	373件	420件	460件
		介護保険関係	500件	450件	600件
		保健関係	208件	200件	230件
手話通訳活動		1,006人	1,100人	1,250人	
展 示 事 業	福祉用具・住宅改造 (特設コーナー含)	2,753人	3,100人	3,200人	
	行 事	特別展(無料講座含)	367人	600人	650人
		プラザバリアフリー探検	97人	99人	150人
		児童館出前教室	139人	150人	350人
		福祉用具展示相談会	169人	320人	300人
高齢者疑似体験セット無料貸出		167人	280人	200人	
情報提供事業		1,436人	1,300人	1,300人	
合 計		7,558人	8,080人	8,320人	

4. 倉敷ファミリー・サポート・センター

健康福祉課

地域において子育ての援助を行いたい人（提供会員）と子育ての援助を受けたい人（依頼会員）を組織化し、会員同士の子育てに関する相互援助活動を支援することにより、仕事と子育てを両立し、安心して働くことができる環境の整備と地域の子育て支援を行い、児童の福祉の向上に寄与します。

〔主な事業内容〕

（１）会員の組織化

会員の募集，登録その他の会員組織業務に関することを行います。

（２）相互援助活動の調整

依頼会員から援助の申込みを受けて，援助の内容，日時等の詳細を確認し，申込み内容にふさわしい提供会員と依頼会員との事前打合わせを行います。

（３）講習会の開催

会員に対して，相互援助に必要な知識を習得するための基礎研修やフォローアップ研修を開催します。

（４）交流会の開催

会員の交流を深め，情報交換の場を提供するための交流会を開催します。遊びや話し合いの会など情報交換の場を通して，会員同士の親睦を図ります。

〈相互援助活動の内容〉

ア 保育施設の開始前まで子どもを預かること。

イ 保育施設の保育終了後，子どもを預かること。

ウ 保育施設までの送迎を行うこと。

エ 放課後児童クラブ終了後，子どもを預かること。

オ 学校の放課後，子どもを預かること。

カ 子どもが軽度の病気の場合等，臨時的，突発的に子どもを預かること。

キ 冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際，子どもを預かること。

ク 買い物等外出の際，子どもを預かること。

ケ その他，会員の子育てに関して必要な援助

区 分	H 3 0 年度実績	R 元年度見込	R 2 年度目標
依頼会員	1, 8 9 2 人	1, 9 4 0 人	2, 0 0 0 人
提供会員	5 8 1 人	6 0 0 人	6 1 0 人
両方会員	2 1 8 人	2 0 0 人	2 1 0 人
合 計	2, 6 9 1 人	2, 7 4 0 人	2, 7 9 5 人
活動件数	6, 9 3 2 件	5, 9 5 0 件	6, 0 0 0 件

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 50人下方修正済

I 健康づくり事業

健康づくり事業は、18歳以上の市民又は市内に勤務する人に対し、「運動・食事・休養」の観点から、心身の健康の維持・増進や生活習慣病を予防することを目的に健康づくりを支援します。

健康づくりの実践として、ヘルスチェック後の個別支援プログラム（個人処方）をもとに、トレーニング器具、水浴訓練等の運動指導や食事及び休養について指導します。

また、各種セミナーや個別相談等を通じて、総合的に市民の健康管理への動機づけや生活習慣改善について指導・支援をしていきます。

そのうち、65歳以上の高齢者がいきいきと自立した生活が実現できるよう、筋力低下や転倒防止のための運動能力向上のトレーニングや心身ともに健康を維持するための食事指導、休養の支援等を行います。

特定保健指導は、特定健康診査の結果、特定保健指導対象者となった40歳以上の個人やグループに対し、生活習慣を改善していくために必要な行動計画の作成と実践について、保健師・管理栄養士・健康運動指導士が継続してサポートします。

このほか、健康づくり支援を行うため、日常生活に取り入れられる内容の運動実践を中心とした「お出かけ運動教室」や、団体等の依頼を受けて栄養・休養の講話や運動を行う「出前健康教室」により、広く市民への健康づくりを啓発していきます。

これらの事業を通じて、利用者の目的に応じた健康情報などの提供や運動実践の指導を行うとともに、倉敷市の作成した健康くらしき21（Ⅱ）に沿った支援を展開し、市民の健康づくりの拠点としての役割を高めていきます。

〔主な事業内容〕

(1) 個別支援プログラムを主とした健康づくりの実践事業

ア ヘルスチェック及び個別支援プログラム（運動処方・食事処方・休養処方）作成
ヘルスチェックのデータに基づき、一人ひとりに合った運動・食事・休養の処方を作成します。

また、ヘルスチェック後には、希望者に対し運動・食事・休養の各専門スタッフによる個別相談を実施し、健康づくりに必要な知識を身につけられるように支援することで、利用者の満足度を高めていきます。会員以外の市民からの電話や面接による個別相談にも対応します。

イ フリートレーニング

トレーニングルームで一人ひとりの運動メニューをもとに運動の支援を行うとともに、体育館、水浴訓練室等を使用した各種教室を開催し、個人の目的や嗜好、レベルに応じた運動を選択し効果的な運動プログラムの実践ができる場を提供します。

また、高齢者の筋力・体力低下防止のために指導を行います。

(2) 各種セミナー

ア 健康づくり実践セミナー

生活習慣病の予防を目的に、運動・食事・休養を総合的に学ぶことができる教室として実施します。日常生活の中に運動習慣を確立することで肥満を解消し、動脈硬化により発症する脳卒中・心筋梗塞等の疾患の予防に繋げるため、集団指導の特性を生かした仲間づくりや、継続して同予防に取り組めるよう支援します。

イ 栄養セミナー

「食べること」の意味を理解し、正しい食生活を実践するために、生活習慣病予防等のテーマを設定して実施します。食への関心を高め、食生活改善が継続的に実践できるよう支援します。

令和2年度は若い年代の方の参加を促すことに重点を置いて実施します。料理が苦手な方や手軽に作りたいというニーズに合わせて実施するセミナーを2回設けます。また、各地域の出前健康教室へ管理栄養士を派遣することで、栄養の知識を啓発していく事業を実施します。

さらに、高齢者の健康づくりのために食事指導を行います。

ウ 休養セミナー

ストレスによる心の病気や心身症等を予防することを目的に実施します。

より多くの方が自分にあったストレス解消法を見つけ、心身の健康維持ができるよう支援します。

令和2年度は若い年代の方の参加を増やすため、土日の開催やニーズに合わせた内容で実施します。

また、高齢者の心身の健康維持のために講話等を行います。

(3) お出かけ運動教室

くらしき健康福祉プラザから遠い地域の市民を対象に、前年度までの実施形態を変更し、船穂・庄・郷内・水島公民館、子育て支援センターおよび児童館と連携し、子育て中の母親や仕事をしている方などを対象に実施します。

継続して運動していただくために児島市民交流センターと玉島市民交流センターで教室を引き続き実施します。また、同センターで新たに若い世代を対象とした教室を実施します。

(4) 特定保健指導

特定健康診査等により、特定保健指導対象者となった40歳以上75歳未満の個人又はグループに特定保健指導を実施します。

健診結果から生活習慣を振り返り、自ら健康づくりに取り組んでいけるように支援し、その3か月後の健康状態を評価します。

ア 動機づけ支援

特定保健指導対象者が、自らの健康状態を自覚し、保健師又は管理栄養士の面接・指導のもとに、行動計画を作成し、3か月後に効果について評価します。

イ 積極的支援

特定保健指導対象者が、自らの健康状態を自覚し、保健師又は管理栄養士の面接・指導のもとに、行動計画を作成し実践します。健康づくりに取り組める適切な働きかけを継続して3か月以上行うとともに、3か月後に効果について評価します。

(5) 出前健康教室

利用者に健康のための情報を提供し、健康づくりへの意識を高めていけるよう支援します。

子育て支援センター、各児童館、親子クラブや幼稚園などの保護者をはじめ、地域の各種団体等からの依頼を受け、管理栄養士、健康運動指導士、保健師の各専門職員を派遣し、健康づくりのための食事や運動、ストレス解消法などの指導を行います。より広域で幅広い年齢層へ向けての派遣を実施することで、広く市民に健康づくりの普及・啓発を行います。

(6) 健康づくりに関する普及・啓発

健康増進に関する情報の収集・提供を行い、利用者が健康づくりへの意識を高めていただけるよう支援します。

また、機関紙「健康づくり事業だより」を発行し、運動・食事・休養の情報を掲載することや働く世代に向けてホームページ・インスタグラムで、健康づくりの情報発信を行います。

(7) 健康づくり関係組織との連携

市民の健康づくりを推進するため、倉敷市保健所、公民館、子育て支援センター、市内の大学、健康づくり施設等と情報交換を行います。

また、市内の大学の学生を実習生として受け入れます。

(延人数)

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
ヘルスチェック		795人	671人	800人
個別相談		207人	254人	270人
各種セミナー	実践セミナー	685人	686人	690人
	栄養セミナー	336人	308人	190人
	休養セミナー	250人	321人	280人
フリートレーニング		31,384人	30,060人	32,650人
お出かけ運動教室		3,105人	2,877人	1,950人
特定保健指導	動機づけ支援	32人	25人	25人
	積極的支援	3人	4人	5人
	支援・評価(※1)	84人	46人	45人
出前健康教室(※2)		1,642人	2,367人	2,500人
合 計		38,523人	37,619人	39,405人

注) ※1 支援及び評価人数は前年度からの動機づけ支援・積極的支援の継続者を含む。

※2 各イベントへの出務も含む。

※3 新型コロナ対応 令和元年度見込合計3,111人下方修正済

II 介護予防事業

「介護予防普及啓発事業」

65歳以上の介護保険の認定を受けていない高齢者を対象に、地域において健康で明るい生活を送ることができるよう、介護予防に関する知識や運動の普及・啓発、自主的活動の育成・支援を行います。

くらしき健康福祉プラザや各憩の家、集会所等を会場とし、スタッフ（理学療法士・作業療法士・看護師・管理栄養士・歯科衛生士・健康運動指導士・音楽療法士）の専門性を生かした介護予防教室を実施します。

「生きがい対応型デイサービス事業」

おおむね60歳以上の介護保険の認定を受けておらず、とかく家に閉じこもりがちになる高齢者の社会参加の促進、介護予防及び生きがいの向上を目的に、憩の家等において、生きがいや健康に関する教室を実施します。

〔主な事業内容〕

(1) 介護予防普及啓発事業

転倒骨折の防止及び加齢に伴う運動機能の低下の予防・向上を図るため、運動、健康講話、音楽療法等を取り入れた教室を実施します。

ア 転倒予防教室

くらしき健康福祉プラザを会場に、心身の健康習慣づくりによる健康寿命の延伸を目的とした「健康のびの〜び倶楽部」の各種教室を実施します。また、口腔ケアと栄養を関連づけて伝えることで健康寿命の延伸を図る「まるっと口の健康教室」を通年実施します。

イ 介護予防啓発教室

各憩の家及び集会所等へ出向き、地域において介護予防に向けた取組みが自発的に継続できるよう教室を実施します。

ウ 出前健康教室

主に市内で活動する団体やグループの要請に応じて職員を派遣し、介護予防のための出前健康教室を実施します。

真備地区でも教室を実施し、集いの場の活動を支援します。

エ 認知症予防教室

認知症の発症及び進行の防止、認知症に対する理解や対応等の普及・啓発を目的として、情報提供、運動、脳力トレーニング等を実施します。また、認知機能評価を使用した教室を実施します。くらしき健康福祉プラザだけでなく地域会場でも教室を実施します。

(2) 生きがい対応型デイサービス事業

高齢者の社会参加の促進、介護予防及び生きがいの向上を目的として、各憩の家を会場に教室を実施します。

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
介護予防 普及啓発事業	転倒予防教室	11,532人	11,917人	12,610人
	介護予防啓発教室	4,939人	3,783人	4,320人
	出前健康教室	4,035人 うち被災者支援439人	3,985人 うち被災者支援307人	4,050人
	認知症予防教室	1,869人	2,053人	2,350人
	合 計	22,375人	21,738人	23,330人
生きがい対応型デイサービス事業		1,675人	1,674人	1,650人
合 計		24,050人	23,412人	24,980人

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 1,428人下方修正済

Ⅲ 倉敷市真備健康福祉館

令和元年度に引き続き，市民の健康づくりや福祉活動等を支援し，すべての世代が集い交流できる場の提供に努めます。また，他の施設との連携を密にすることで市民へのより良いサービスの提供を行います。

真備健康福祉館が復旧するまでの間，倉敷市が同館の多目的広場に建設した仮設プレハブを中心に，他の施設も使用して指定管理で定める事業を実施します。

〔主な事業内容〕

(1) トレーニング室の運営に関する業務

市民の健康づくりを支援するため，トレーニング等に関する的確な指導及び助言等を行います。

(2) 基幹事業

市民の健康づくり，福祉活動等を支援し，すべての世代が集い，交流できる施設となるよう，業務基準書に指定された4事業のうち，仮設プレハブで実施可能な3事業を次の範囲で行います。

ア こどもひろば事業

(ア) こどもひろばの管理運営

(イ) 育児サロン

(ウ) 子育て講演会

(エ) 親子のふれあい遊び

(オ) 絵本の読み聞かせ

(カ) おんがく遊び

(キ) プレママ教室

イ 親子交流促進事業

(ア) 親子でリズム体操（親子体操）

ウ 世代間ふれあいデイサービス事業

(ア) 健康体操

(3) 自主事業

ア 市民の健康づくりの支援

(ア) リフレッシュエクササイズ

(イ) 転倒予防・お腹スッキリ腰・膝らくらく教室（再実施）

イ 障がい者，高齢者等の社会参加の支援

(ア) シルバー健康体操

ウ 世代間交流の支援

(ア) 昔遊びの伝承教室

エ 地域福祉活動の支援

(ア) 子どものための交通安全教室

オ 地域の子育て支援

(ア) おでかけ児童館

カ その他の業務

(ア) 受付業務

(イ) 被災者支援

(ウ) 地域イベントへの参画

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
貸館業務		4,911人	—	—
多目的広場(屋外)		984人	—	—
プール利用		9,215人	—	—
トレーニング・介護予防・軽運動室		4,162人	1,160人	3,600人
展示販売		18人	—	—
物品販売		84人	4人	10人
基 幹 事 業	こどもひろば事業	3,339人	1,393人	2,700人
	親子交流促進事業	57人	136人	150人
	世代間交流事業	280人	88人	—
	ふれあいデイサービス事業	280人	766人	600人
自 主 事 業	市民の健康づくりの支援	3,236人	454人	1,800人
	転倒予防・お腹スッキリ 腰・膝らくらく教室 (再掲)	1,745人	—	120人
	地域の子育て支援	562人	85人	120人
	障がい者,高齢者等の社会参 加の支援	1,085人	320人	1,200人
	世代間交流の支援	130人	84人	60人
	地域福祉活動の支援	—	0人	20人
そ の 他	インターネット利用	133人	—	—
	見学者	21人	50人	40人
	環境絵画展	—	—	—
	人権に関する講座	—	—	—
小 計		28,497人	4,540人	10,300人

被災後の業務

運動教室	185人	—	—
被災者支援	1,194人	23人	50人
地域イベントへの参画	414人	441人	400人
絵本の読み聞かせ	16人	—	—
親子運動教室	33人	—	—
受付業務(還付事務)	419人	30人	—
外部運動教室(出前)	—	—	—
小 計	2,261人	494人	450人
合 計	30,758人	5,034人	10,750人

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 830人下方修正済

I 子育て支援事業

少子化や核家族化，また地域での交流が希薄になる中，子育て中の親の孤立感を和らげ，育児不安や育児負担の軽減を図るため気軽に来所して相談できる場や，他の親との仲間づくりができる場づくりに努めます。

また，託児サービスや子育て情報の提供，「地域で子育て応援講座」等を実施し，地域に根付いた子育て支援を行います。

〔主な事業内容〕

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

ア オープンスペース（遊びのひろば）の常設

親子でふれあいながら遊びの場を通して親同士の交流を広げて育児の孤立感を軽減し，親の育児の不安や悩み等に対しては，保育士や保健師が相談に乗りながら安心して子育てができるように支援します。

イ ひろば事業（こいのぼり，たなばた，クリスマス，ひなまつり）等の実施

伝統行事を大切にし，季節毎の遊びの集いでは親子で一緒にふれあい，楽しみながら子どもの情操を育みます。

また，親子体操や音楽遊び，ミニミニタイム，おはなしタイム，ミニコンサート等を実施してより一層，親子のふれあい活動を促進します。

(2) 子育て等に関する相談・援助の実施

ア 保育士，保健師が来所や電話での相談を実施します。また，月1回臨床心理士による特別相談を実施します。その他，子育て支援関連機関等と連携を図りながら，虐待やDV等の予防や早期発見に努めます。

イ 障がいや疑われる子どもに対しては，集団生活への適応や自立意欲の増進，親子関係の確立等のため，倉敷市立短期大学の協力を得ながら「親子ふれあい教室」や感覚矯正事業の言語聴覚士と連携して「のびのび教室」を実施します。また，視覚・聴覚異常や言葉の遅れの早期発見のため，「言葉の話」「目の話」の講話も実施します。

ウ 親同士が気軽に育児の悩みや疑問について話し合える「ほっとサロン」を実施します。また，親になる妊婦を加え育児に対する不安の軽減を図り，安心して子育てができるよう支援します。

エ おもちゃを通して自主性や社会性が育つように遊びの場を提供するとともに，おもちゃ図書館事業として，心身に障がいのある18歳未満の児童におもちゃを貸し出します。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

子育て支援関係機関とのネットワークを密にして情報提供の充実を図るとともに，倉敷市が作成した「子育てハンドブック」，「子育てマップ」，広報くらしき，報道機関等を通じて，より広く情報提供に努めます。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

子どもの健康や発達について専門家を招き「子育て講演会」，「救命救急講座」
「栄養の話」，「歯の話」を行い，より実践的な子育て支援を実施するとともに，親
の育児疲れを少しでも軽減させるように，月2回「ハンドマッサージ」，年1回「虫
よけスプレー作り」，「ハンドクリーム作り」，「お母さんのためのヨガ」，また
「ママのためのおしゃれ講座」を年数回実施します。

令和2年度は，31年度に始めて実施した「キラキラママ講座」を継続して実施し
ます。事業団内連携により，健康づくり事業の管理栄養士の協力を得て「おやつ作り」
を計画しています。

(5) 地域支援活動の実施

ア 幼児向けのイベントやプラザまつりを通じて，地域の子育て中の親子に楽しんで
もらうとともに，センターの活動をPRします。

イ 地域子育て支援拠点や児童館等と連携し，子どもの発達や育児に関する相談や情
報提供に努め，保健師や保育士の専門性を生かしながら育児の支援をします。

地域の子育てサークルへ遊びの指導や遊具の貸し出しを行い，活動を支援します。

ウ 「地域で子育て応援講座」を実施する事務局として講座を開催し，地域で子育て
支援をしてもらう人の育成に努めます。

ボランティア事業に参加してもらえるよう，倉敷地区愛育委員会や栄養改善協議
会にも働きかけます。

エ 各事業において託児ボランティアを受け入れ，母親が参加しやすい環境づくりに
努めるとともに，学生ボランティアを積極的に受け入れます。

オ 倉敷市立短期大学や倉敷看護専門学校，川崎医療福祉大学等の実習生及び中学生
の体験学習を受け入れます。

(6) 託児サービスの実施

倉敷市子育て支援センターの登録会員で生後6か月から就学前の健康な乳幼児を対
象に託児サービスを実施します。

(7) 市内子育て支援拠点の総括機能

倉敷市子育て支援センターは，倉敷市との委託契約の中で「市内の地域子育て支援
拠点を総括する，中心的役割を担う。」とされており，当センターでは市内19施設
が，お互いに切磋琢磨し資質向上ができるよう研修会や連絡会を実施します。

区 分	H30年度実績	R元度見込	R2年度目標
(1)子育て親子の交流の場の提供と交流の促進			
オープンスペース	30,432人	28,600人	30,000人
ひろば事業	1,670人	1,500人	2,000人
(2)子育て等に関する相談と援助の実施			
各種相談 (移動育児相談・特別相談含)	2,064人	2,100人	2,200人
療育的教室(親子ふれあい教室)	330人	400人	400人
ほっとサロン	187人	260人	300人
おもちゃ図書館・本の貸し出し	421人	400人	400人
(3)地域の子育て関連情報の提供			
子育てハンドブックの配布等	10,737件	9,500件	9,500件
(4)子育て及び子育て支援に関する講習等の実施			
講座・講演会	661人	750人	800人
(5)地域支援活動の実施			
子育てサークル支援	569人	450人	450人
プラザまつり	0人	616人	600人
スポーツフェスティバル	*注1) 430人	*注2) 378人	0人
ボランティア養成等	165人	450人	500人
実習生指導	207人	100人	100人
会議・その他等	881人	600人	600人
(6)託児サービス	1,021人	1,000人	1,000人
災害支援(真備臨時託児所)	275人		
合 計	39,313人	37,226人	39,350人

注) (3)は、件数のため合計から除く。(令和元2年1月末実績)

*注1) 統計に入れている

*注2) 次年度からは参加しない方針のため、統計に入っていない

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 1,840人下方修正済

II 感覚相談事業

感覚機能（視覚及び言語聴覚）障がいの早期発見，訓練指導，保健相談等を行い，市民の保健福祉対策を図ります。

早期発見については，倉敷市が行う3歳児健康診査に視能訓練士と言語聴覚士が参加することで，健康診査業務の機能が向上されるよう保健所との協力体制を強化しながら実施します。

また，相談者への適切な支援に努めるとともに，支援にあたっては，医療機関や他の関係機関との連携を深めていきます。

職員の知識・技能の向上を図り，市民や関係者から信頼や安心を得られるよう努めます。

〔主な事業内容〕

(1) 視能部門

ア 相談

視能訓練士が見え方に関する相談を行います。

イ 視覚障がい児・者の自立支援

日常生活の困難に対して視覚補助具の紹介，使用訓練，環境調整，交流会，研修会を行い，自立した在宅生活を支援します。

また，必要に応じて眼科，障がい福祉課，社会福祉事務所，障がい者支援センター，高齢者支援センター，倉敷市教育委員会，県立岡山盲学校等と連携を行います。

ウ 視覚発達支援

眼球運動又は視知覚等の発達に偏りがあり「読み」，「書き」が困難な小学生に対して，視機能に関する相談・支援を行います。

また，必要に応じて通級指導教室，小学校等と連携を行います。

エ 地域活動

福祉施設に訪問し，利用者及び職員の相談・支援を行います。また，地域に出向くなどして出前講座により視覚に関する正しい知識の普及，情報提供及び個別相談を行います。

子どもを持つ保護者に対しては児童館・児童センター，地域子育て支援拠点等と連携し，大人に対しては介護予防事業者，高齢者支援センター等と連携しながら行います。

オ 3歳児健康診査への参加

倉敷市が行う3歳児健康診査に参加し，視覚障がいの早期発見に努めます。

視能部門

区 分	H 3 0 年度実績	R 元年度見込	R 2 年度目標
相談（専門相談含む。）	63人	50人	80人
視覚障がい者自立支援	373人	380人	380人
視覚発達支援	78人	130人	140人
地域活動	994人	1,900人	1,950人
3歳児健康診査における個別相談※	792人	750人	750人
合 計	2,300人	3,210人	3,300人

※ 3歳児健康診査での見え方に関する個別相談(アンケート項目該当者のみ)

※ 新型コロナ対応 令和元年度見込合計 60人下方修正済

(2) 言語聴能部門

ア 相談

言語聴覚士が言葉に関する相談を行います。また、聞こえに関する相談や検査については、医療機関と連携し適切な対応を行います。

イ 言語訓練

3歳以上の言語発達の遅れがある児や言語障がい者にグループを中心とした言語訓練を行います。2歳児を対象とした「のびのび教室」、年長児（5, 6歳）及び小学生の発達に不安がある親子を対象とした「プレ・one教室」を行います。

また、幼稚園、保育園、幼児指導教室、通級指導教室と連携を強化し、言語訓練利用者の社会生活がより円滑に行えるよう専門機能を提供し、必要に応じて情報交換を行います。グループ活動を通して保護者同士の交流を深め、家庭や社会生活での悩みや不安を軽減できるよう支援します。

ウ 地域活動

福祉施設等に訪問し、利用者及び職員の相談・支援を行います。また、地域に向くなどして出前講座により言語に関する正しい知識の普及、情報提供を行い、個別相談を行います。

子どもを持つ保護者に対しては児童館・児童センター、地域子育て支援拠点等と連携し、大人に対しては市民学習センター等と連携しながら行います。

エ 3歳児健康診査への参加

倉敷市が行う3歳児健康診査に参加し、言語聴覚機能の障がいの早期発見に努めます。

言語聴能部門

区 分	H 3 0 年度実績	R 元年度見込	R 2 年度目標
相談	1,843人	1,950人	2,000人
言語訓練	1,027人	1,100人	1,100人
地域活動	781人 (被災地支援209人)	1,065人	1,150人
3歳児健康診査における個別相談 ※	511人	480人	515人
合 計	4,162人	4,595人	4,765人

※ 3歳児健康診査での聞こえ・言葉の個別相談(アンケート項目該当者のみ)

※ 新型コロナ対応 令和元年度見込合計 70人下方修正済

7. 倉敷市障がい者デイサービスセンター

健康福祉課

倉敷市障がい者デイサービスセンターは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づく「生活介護事業」を実施します。

「生活介護事業」では、常時介護を要する障がい者に対して、入浴、排せつ及び食事等の介護、その他の必要な日常生活上の支援及び創作的活動を行います。利用者への支援にあたっては、個別支援計画に基づき、必要なサービスを提供します。

また、「地域支援事業（基礎的事業）」として文化的創作的な各種講座及び障がい者スポーツの開催、パソコン自主学習の支援等の社会参加推進事業やピアサポート事業を行います。

〔主な事業内容〕

(1) 生活介護事業

ア 介護サービス

排せつ、食事、口腔ケア等、日常生活動作の困難な利用者に対して、必要な介助を行います。

イ 入浴サービス

特殊浴槽（チェアインバス・オンラインバス）による入浴サービスを行います。

ウ 送迎サービス

リフト付車両による送迎サービスを行います。

エ 給食サービス

利用者の摂食状態に合わせて「普通食」「粒ペースト食」「ペースト食」等の形態に分けた給食を提供します。

オ 創作的活動

工作、絵画、習字等の活動を行います。

カ 健康管理

- ・嘱託医師による診察を行います。 週1回
- ・看護師による家族への健康管理の助言や、嘱託医及び主治医の指示による医療的ケアを行います。

キ 機能訓練

身体機能の維持と低下を防止するため、利用者のニーズに合わせた機能訓練を行います。

ク レクリエーション

ゲーム、カラオケ、音楽、散歩、買い物等のレクリエーションを行い、生活体験を広げます。

ケ 行事

様々な社会体験活動やデイサービス祭り、七夕会、クリスマス会等季節感のある行事を行います。また、他施設との交流等社会参加に繋がるプログラムを取入れます。

コ 生活の相談支援

児島・玉島・水島の障がい者支援センターや市内の地域支援センター等と連携を図りながら、日常生活や社会参加に向けての生活の相談に応じます。

また、家庭介護についての相談及び助言を行います。

(2) 地域支援事業（基礎的事業）

ア 講座

障がい者の社会参加や生活の質の向上と自立を促進するために、パソコン、囲碁、書道、編物、絵手紙、笑いヨガ、フラワーアレンジメント、ビーズアート、音楽療法等の講座を実施します。

イ 障がい者スポーツ教室

障がい者スポーツ推進のため、アーチェリー、車いすテニス、車いすバスケットボール、グラウンドゴルフ、車いすツインバスケットボール、電動車いすサッカー、スポーツ吹矢の障がい者スポーツ教室及び体験教室を実施します。

ウ パソコン自主学习

社会適応訓練室を開放し、ボランティアと協力しながら、障がい者の自主学习（パソコン）を支援します。

エ センターの地域開放

中学生、高校生、福祉を目指す大学生や専門学校生及び市民のボランティアを積極的に受け入れるとともに、看護師養成のための在宅看護実習や介護福祉士養成のための介護技術現場実習、教員志願者のための介護体験としての場を提供します。また特別支援学校からの体験実習の受け入れを行います。

さらに、プラザまつりを通じて施設の活動を地域に紹介します。

オ 関係機関・団体との連携

各行政機関、障がい者福祉関連団体、特別支援学校等と連携し、積極的に障がい者の地域生活の支援を行います。

区 分			R 元年度見込	R 2 年度目標
生活介護事業 (デイサービス)	延人数		2,020人	2,300人
	入浴サービス		1,160人	1,200人
	送迎サービス		4,020人	4,100人
	給食サービス		2,050人	2,150人
	医師相談		90人	95人
	機能訓練		690人	700人
基 礎 的 事 業	講 座	種類	9種類	9種類
		実施回数	270回	295回
		受講者数	1,630人	1,950人
	障がい者 スポーツ	スポーツ教室	2,350人	2,550人
		体験教室	75人	90人
	パソコン 自主学習	ピアサポート (パソコン自主学習)	265人	330人
	その他	ボランティア	560人	620人
		地域開放等 (プラザまつり・実習生, 介護体験等)	800人	850人
合 計			7,625人	8,600人

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 515人下方修正済

8. 倉敷市憩の家（36施設）

福祉施設課

倉敷地区（中央，茶屋町，中島，天城，笹沖，庄，中洲，豊洲，庄東，生坂，西阿知，豊洲中央）

水島地区（古新田，連島，水島，浦田，連島北，広江，鶴新田）

児島地区（児島，稗田，琴浦，下の町，赤崎，本荘，下津井，郷内）

玉島地区（玉島，黒崎，南浦，乙島，長尾，柏島，柏島東，穂井田，船穂）

憩の家は、地域の高齢者や住民に対し、教養の向上、レクリエーション等の場を提供し、高齢者の心身の健康保持及び相互の親睦を図り、やすらぎの場とする施設です。また、高齢者や住民が身近に感じ、高齢者と子どものふれあいの場としても気軽に利用できる施設となるよう努めます。

令和2年度も引き続き指定管理者として倉敷、水島、児島、玉島地区の36施設の管理運営を行います。地域の特性を生かすために、地元の老人クラブ等に管理業務を委託し、事業団は維持管理業務等を通じて、援助、指導を行います。

市民の健康増進と地域活動の活性化のため、地域団体、公共的団体あるいは、自主活動を行っている各種同好会の活動の場を提供します。

利用者の自主活動は、民謡や詩吟、大正琴、舞踊、健康体操、卓球、囲碁、将棋、パソコン等が行われています。また、倉敷市と連携し、介護予防事業等が順次開設されています。講座の利用が高まるよう支援を継続します。

〔主な事業内容〕

（1）憩の家の維持管理業務

憩の家の維持管理にあたっては、利用者に安心して使用していただけるよう維持管理を行います。特に、建物や設備の日常管理の徹底、こまめな小規模修繕により中規模以上の修繕の減少に努めます。

（2）各地区共通の事業

ア 年金制度，医療制度，メタボリックシンドローム等様々なテーマを設定した教養講座を実施します。

イ 利用者の心身両面の健康を維持増進するため，くらしき健康福祉プラザと協力して転倒予防教室，健康体操，音楽療法教室などを開催します。

ウ 市内6児童館と連携し，高齢者，子ども，親子を対象とし，昔遊び，伝統行事，手作りおもちゃ等，世代間の交流事業に取り組みます。

エ 地域の親子クラブ，子育てサークルの活動の場として「ふれあいコーナー」や大広間を開放し，子育てを支援します。

オ パソコン教室の盛んな憩の家に，インターネットが自由に使える環境整備に取り組みます。

（3）倉敷地区の事業

バスケットピンポン，スカットボール等のニュースポーツを有城荘，西岡荘と協力して実施します。

(4) 水島地区の事業

水島地区・玉島地区合同の将棋大会を開催し、地区同士の交流を図ります。

(5) 児島地区の事業

女性に人気の高い手描友禅体験教室を実施し、女性利用者の増加を図ります。

(6) 玉島地区の事業

憩の家対抗将棋大会を実施します。高齢者が憩の家単位でチームを結成し、普段とは違う相手と対戦することにより、地域の結束と他の地域との交流を深めます。

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
倉敷地区	12施設	118,894人	121,000人	120,200人
水島地区	7施設	69,731人	65,000人	64,100人
児島地区	8施設	65,526人	63,000人	68,100人
玉島地区	9施設	73,853人	72,000人	78,600人
合 計	36施設	328,004人	321,000人	331,000人

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 14,000人下方修正済

障がい者就業・生活支援センターは、就業及び日常生活、社会生活上の支援を行うことにより、障がい者の職業生活における自立を図ることを目的に、国・県及び市からの委託を受けて倉敷・井笠障害保健福祉圏域を対象に、障がい者の就労相談から職場定着までのきめ細かな人的支援を行います。

また、障がい者の雇用を進める上では、就職や職場適応などの就業面の支援はもとより、就職に伴う生活習慣の形成や日常生活の自己管理等に関する生活支援も重要です。そのため、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を行います。

〔主な事業内容〕

（1）指導・助言・情報提供

ア 障がい者からの相談に応じ、就業及び日常生活、社会生活上の問題について、必要な指導及び助言等のほか情報提供を行います。

イ 機関紙「ここから」を発行（年4回）し、登録者、公共職業安定所等の関係機関や企業に対し、就業や生活に関する情報提供を行います。

ウ 利用者間及び職員との親睦交流を深めることと、社会スキルなどの習得を目的とする「ワークわく交流会」（在職者交流会・年4回）等の交流活動を行います。

エ 就労継続支援A型事業所へ就職するためのアセスメントに参画します。

（2）支援計画の作成

利用者の障がいの状況や相談に係る問題点を十分聴取し把握した上で、自立に向けた個別支援計画を作成します。

（3）関係機関等との連絡調整

より適切な指導・助言を行うため、本人及び家族の了解を得た上で、岡山障害者職業センター、福祉サービス事業所、企業など関係機関との連絡調整を行います。

（4）就職に向けた準備支援

公共職業安定所への求職登録をし、職場紹介、職場訪問及び実習を支援するとともに、本人が仕事を覚え、職場環境に適應できるようにするためのジョブコーチの派遣等の制度を活用しながら、就職の支援を行います。

（5）離職の可能性の高い利用者に対する職場定着支援

職場不適應等で離職の可能性の高い利用者については、速やかに状況を把握した上で、本人、家族、関係機関等と対応策を検討し、職場定着に向けた支援を行います。

（6）基礎訓練

福祉サービス事業所において、基本的な生活・労働習慣の習得を目的とする基礎訓練を行います。

（7）職業準備訓練及び職場実習のあっせん

基本的な労働習慣の体得と職場への適合性を把握することを目的として、公共職業安定所と連携し、岡山障害者職業センターや企業等で実施される職業準備訓練及び職場実習をあっせんします。

訓練や実習に先立ち、岡山障害者職業センターに作業能力評価を依頼し、その結果

を踏まえ、必要に応じてケース会議を開催し、訓練・実習方法等について検討します。

(8) 企業への情報提供、助言等

ア 企業向けの障がい者雇用支援セミナー（年1回）を開催します。

イ 公共職業安定所と連携して、障がい者雇用に係る雇用率制度や助成金制度等を紹介します。

ウ 利用者を雇用予定又は雇用中の企業に対し、本人の障がい特性について理解を求めるとともに、労働条件等について相談に応じ助言を行います。

エ 障がい者雇用に関心のある企業に対し、より積極的な雇用に取り組めるよう、情報提供に努めます。

オ 企業間のネットワークを構築するために、企業の視点から障がい者雇用を考える企業交流会「TEAM PLUS」（年4回程度）を開催します。

(9) 連絡会議の開催

就業支援業務を円滑かつ有効に実施するため、岡山労働局、公共職業安定所、岡山障害者職業センター、倉敷・井笠障害保健福祉圏域（倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町）の行政機関、福祉サービス事業所、保健医療機関、特別支援学校、当事者団体等の関係機関との連絡会議を年1回開催します。

(10) 情報収集・提供及び研修の実施

自立支援協議会（6団体）ごとの就労部会に構成員として参加し、関係機関との連携を深め、就労に関する情報提供や事例検討を行います。

(11) 職業生活全般に係る支援の実施

利用者の職業生活に関する相談（仕事、体調管理等）や生活上（住宅の確保、金銭管理等）の相談等に応ずるなど就業及び日常生活又は社会生活に必要な支援を行います。

区 分	H30年度実績	R1年度見込	R2年度目標
相談・支援件数	6,033件	6,100件	6,500件
登録者数(うち新規登録者数)	471人(126人)	510人(120人)	500人(100人)
職業準備訓練・職場実習件数	39件	40件	42件
就職件数	114件	75件	80件

自立した日常生活が困難な障がい者及び就労を希望する障がい者に、日常生活を営むために必要な訓練並びに就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を行います。

利用者の支援にあたっては、「自己選択と自己決定」を尊重しながら、家族や関係機関との連携及びネットワークの構築を行い、より一層利用者の社会参加の実現を図ります。

また、利用者のニーズに的確かつ迅速に対応できるよう、適宜懇談を実施し、質の高いサービスの提供と効率的な運営を図ります。

I 自立訓練（生活訓練）

知的障がい者や精神障がい者を対象とし、地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上等のための訓練（職業習慣の習得等、一般就労に必要な基礎訓練を含む。）や生活等に関する相談及び助言その他の必要な支援を、個別支援計画に基づき行います。

〔主な事業内容〕

(1) 作業支援

利用者の主体性と社会生活の向上を促します。働く喜びを得るとともに、一人ひとりに見合った作業内容を提供し、作業場面を通じて利用者の適性や能力を的確に把握し、作業能力、作業態度、マナー等の育成を行います。

また、作業種目の見直し及び開発に努めます。

(2) 生活体験

ア 施設内生活体験

社会生活を営む上で必要な知識・技術等の習得を図るために、個々のニーズに合わせて、SST（ソーシャル・スキル・トレーニング：日常生活に必要な生活力等）を実施します。

また、「就職者の話を聴く会」を開催し、利用者の一般就労への動機付けや就労意欲の向上の場とします。

イ 施設外生活体験

職場見学を行い、一般就労に対するイメージ作りを支援します。各種行事等を通じて、金銭管理、公共交通機関の利用等社会体験の機会を増やします。

また、ふじ園自治会の活動として、周辺地域の清掃活動の時間を設け、利用者の地域貢献活動を行います。

ウ 健康管理

定期健康診断を通じ、心身の健康状態の把握に努めます。

(3) 給食

健康増進を図るため給食を実施します。

なお、内容は個々の利用者の状態にあった栄養素量・食事形態とします。

(4) 避難訓練

消防計画等に基づき、避難訓練を月1回実施します。

(5) 施設の開放及び利用促進

地域の中学・高校からの体験交流活動の受け入れ、教職員、福祉専門職員を目指す大学生や福祉講座の生徒の体験実習・援助技術現場実習等の場の提供を通じて、施設が保有する人的・物的資源を積極的に地域へ開放します。

利用促進については、事業案内のパンフレット等を活用し、倉敷障がい者就業・生活支援センター等の関係機関への配布及びホームページの内容を充実させることにより広報活動を行います。

また、特別支援学校の生徒や関係機関等の利用者を対象として、見学説明会を年2回開催し、潜在的な利用者の掘り起こしを行うほか、就労継続支援B型事業の利用に係る経過措置終了後に向けた対応を積極的に行います。

このほか、福祉系大学との連携による、新たな支援方法の研究及び開発を行います。

(6) 事業団内他部署との連携強化

倉敷市総合福祉事業団は多様な福祉施設、事業を運営するとともに、音楽療法士、言語聴覚士、健康運動指導士等の豊富な人材を有しています。余暇活動の充実や健康の増進等、利用者一人ひとりの生活の質の向上に資するため、これらの人材を有効に活用すべく連携を図ります。

II 就労移行支援

就労を希望する65歳未満で、通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる障がい者を対象とし、一般就労へ向けて生産活動や職場実習、適性に合った職場の開拓、就職後における職場定着のための支援等を、個別支援計画に基づき行います。

〔主な事業内容〕

(1) 一般就労への移行支援

倉敷障がい者就業・生活支援センター、ハローワーク、岡山障害者職業センター等の関係機関との連携強化に努め、職場見学・実習や就職の受け入れ企業の開拓を行い、関係諸制度を活用して就労へと導きます。

また、より多くの障がい者が一般就労に移行できるよう、支援難度の高い利用者に対する新たな支援方法を福祉系大学と連携し研究・開発し、直接支援に活用します。

(2) 職場定着支援

企業と調整を取りながら職場訪問を行い、就職後も企業や退所者から相談に応じられる体制を整え、現状把握・アフターケアの充実に努めます。

また、「就職者の話を聴く会」を開催し、企業でのマナーの再確認等情報交換のほかに、利用者の一般就労への動機付け、就労意欲の向上の場とします。

(3) 作業支援

利用者の主体性と就労意欲の向上を促します。働く喜びを得るとともに、一人ひとりに見合った作業内容を提供し、作業場面を通じて利用者の適性や能力を的確に把握し、企業で要求される作業能力、作業態度、マナー等の育成を行います。

また、作業種目の見直し及び開発に努めます。

(4) 生活体験

ア 施設内生活体験

社会生活や職業生活を営む上で必要な知識・技術等の習得を図るために、個々の

ニーズに合わせ、SSTを実施します。

イ 施設外生活体験

職場見学や実習を実施します。各種行事等を通じて、金銭管理、公共交通機関の利用等社会体験の機会を増やします。

また、ふじ園自治会の活動として、周辺地域の清掃活動の時間を設け、利用者の地域貢献活動を行います。

ウ 健康管理

定期健康診断を通じ、心身の健康状態の把握に努めます。

(5) 給食

健康増進を図るため給食を実施します。

なお、内容は個々の利用者の状態にあった栄養素量・食事形態とします。

(6) 避難訓練

消防計画に基づき、避難訓練を月1回実施します。

(7) 施設の開放及び利用促進

地域の中学・高校からの体験交流活動の受け入れ、教職員、福祉専門職員を目指す大学生や福祉講座の生徒の体験実習・援助技術現場実習等の場の提供を通じて、施設が保有する人的・物的資源を積極的に地域へ開放します。

利用促進については、事業案内のパンフレット等を活用し、倉敷障がい者就業・生活支援センター等の関係機関への配布及びホームページの内容を充実させることにより広報活動を行います。

また、特別支援学校の生徒や関係機関等の利用者を対象として、見学説明会を年2回開催し、潜在的な利用者の掘り起こしを行うほか、就労継続支援B型事業の利用に係る経過措置終了後に向けた対応を積極的に行います。

このほか、福祉系大学との連携による、新たな支援方法の研究及び開発を行います。

(8) 事業団内他部署との連携強化

倉敷市総合福祉事業団は多様な福祉施設、事業を運営するとともに、音楽療法士、言語聴覚士、健康運動指導士等の豊富な人材を有しています。余暇活動の充実や健康の増進等、利用者一人ひとりの生活の質の向上に資するため、これらの人材を有効に活用すべく連携を図ります。

(9) 就労継続支援A型利用に係る就労アセスメント事業の実施

就労継続支援A型利用に係る就労アセスメント事業について、倉敷市及び関係機関と連携し適切に実施します。

区 分	H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
契約者数	16人	13人	20人
在籍者数(3月31日現在)	7人	11人	15人
延利用者数	2,587人	2,400人	2,800人
延職場実習日数	226日	50日	162日
実習受け入れ企業数	19社	10社	15社
就職者数	6人	2人	5人

老人福祉センターは、地域の60歳以上の高齢者に対し各種の相談に応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し、高齢者が健康で明るい生活を営めるよう支援する施設です。

〔主な事業内容〕

(1) 各種相談等事業

- ア 生活、住宅、身上、生業、就労等に関する相談を行います。
 - イ 疾病の予防や治療、後退機能の回復に関する相談を行います。
- また、看護師による健康相談を行い、健康管理についての助言を行います。

(2) 教養の向上に関する事業

- ア 倉敷市生きがい対応型デイサービス事業をセンター内で実施し、生きがいや健康づくりに関する各種講座を通じて、高齢者の社会参加の促進、介護予防及び生きがいの向上を図ります。

西岡荘	有城荘	まきび荘
リラックスヨガ（前期）（新）	楽しいコーラス	ボールで楽しく体操
健康づくり体操（前期・後期）	グラウンドゴルフ	
初めての太極拳（前期）	はじめての水彩画	
スッキリ健康体操（前期・後期）	関節楽しくボール運動	
楽々ヨガ（後期）	のびのび書道	
生き生きエアロビクス（後期）		
計 8 講座	計 5 講座	1 講座

- イ 高齢者の関心や要望を取り入れながら、各荘の特色を生かした独自の講座を開催し、健康の維持や趣味の広がり支援します。

(3) レクリエーション等の事業

高齢者の憩いの場として、カラオケ、ビリヤード、囲碁、将棋、卓球等の娯楽器具やオセロやトランプなどの遊具を用意して、多数の方々が出会い楽しく過ごせるよう支援します。

各荘で趣向を凝らした独自事業を積極的に行い、新規利用者の開拓に努めます。

特に、外出の機会の少ない方や交流を求めている方が気軽に参加できる場と雰囲気をつくり、心身の健康維持に努めます。また、各種同好会の活動を側面的に支援します。

(4) 浴場開放事業（まきび荘を除く。有城荘は6月16日をもって終了予定。）

清潔の保持や健康の増進に加え、ふれあいと交流の場として、大きな浴槽と清潔な湯をゆったりと利用することで、心と身体のリフレッシュを図ります。

浴場開放時間中は、職員による声かけ等安全確認を行い事故防止に努めます。また、浴場は毎日清掃し、衛生管理に努めます。

I 西岡荘

(1) 寿講座

関係機関と連携しながら、利用者の関心の高そうな講話や健康体操などを開催します。

また、内容によっては、地域の方も受講できるよう一般開放します。

健康増進講座

(2) 創作活動

創作活動をすることで、新たな発見、生きがいの創造に繋がるよう支援します。

ア 心を伝える絵手紙講座

イ 初めての手編み講座

ウ 着付け講座

エ 楽しいペン習字講座

(3) ふれあい事業

多くの方が気軽に参加し、交流を通して楽しく過ごせる事業を実施します。

花苗の無料配布

(4) レクリエーション事業

高齢者の憩いの場として、楽しく過ごせるよう、レクリエーションへの参加のきっかけ作りを支援します。

ア ビリヤード教室

イ ビリヤード大会（有城荘・まきび荘との3館交流事業）

ウ レク散歩（有城荘・まきび荘との3館交流事業）

(5) 演芸大会

西岡荘で活動している同好会や利用者を中心に、日頃の練習の成果を発表する場として演芸大会を年2回開催します。

なお、地域の方にも一般開放を行い、利用者とともに楽しむ「演芸大会」となるよう努めます。

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
利用者実人員		26,431人	25,500人	27,100人
利 用 内 容	各種相談等事業	21,951人	23,000人	19,000人
	教養の向上に関する事業	1,334人	1,500人	1,350人
	レクリエーション等の事業	15,848人	14,800人	16,000人
	浴場開放事業	14,073人	13,600人	15,000人

(利用内容は重複あり)

※新型コロナ対応 令和元年度見込 500人下方修正済

II 有城荘

(1) さわやか講座

利用者の強い要望で実施した「はつらつ！ブラッシュアップ体操」を引き続き実施して、転倒予防と体力の維持増進を目指し、心身ともに健康な生活を送るための支援をします。

(2) レクリエーション事業

利用者の興味や関心をより豊かにし、いきいきと楽しめる時間を過ごしていただくため、多彩な事業を実施します。また、今年度も西岡荘・まきび荘との交流事業を行うほか、隣接する倉敷児童館の子どもたちと楽しく遊び、その交流を通じて子育て支援の機会を作ります。

ア ウォーキング，グラウンドゴルフ大会 等

イ 手描友禅，クラフトバンド手芸 等

ウ ごきぶり団子づくり，クリスマスコンサート 等

エ ビリヤード大会，レク散歩（西岡荘・まきび荘との3館交流事業）

オ グラウンドゴルフ体験（倉敷児童館との交流事業）

(3) 有城荘まつり

地域の方々のふれあいの場となるよう、広く施設を開放するとともに、利用者の日頃の創作活動や演芸を発表する場として、2月に有城荘まつりを開催します。

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
利用者実人員		27,534人	26,900人	27,500人
利 用 内 容	各種相談等事業	16,961人	15,900人	16,500人
	教養の向上に関する事業	2,529人	2,780人	2,800人
	レクリエーション等の事業	22,378人	21,200人	22,000人
	浴場開放事業	7,114人	6,800人	1,500人

(利用内容は重複あり)

※新型コロナ対応 令和元年度見込 200人下方修正済

※総合福祉会館建替えのため、浴場開放事業は6月16日をもって終了予定です。

Ⅲ まきび荘

(1) いきいき講座

共通の趣味や興味を通じて、利用者が健康で豊かな生きがいを持った生活を送れるよう、いきいき講座を開催します。

- ア 歌唱指導 週1回
- イ 手編教室 月2回
- ウ 生花教室 月2回
- エ 茶道教室 月2回
- オ 百歳体操 月3回

(2) レクリエーション事業

地域の団体や組織と協力して、利用者のニーズに合った事業を実施します。

また、世代間のふれあい交流行事を計画的に行います。

- ア 七夕まつり，クリスマス会，節分の会，ひな祭り等の季節行事
- イ 地域福祉の勉強や高齢者との交流を実践する学生との交換会
- ウ ビリヤード大会，レク散歩（西岡荘・有城荘との3館交流事業）
- エ 手芸等ふれあい会

(3) まきび荘環境整備事業

地元婦人部（みその会）や真備地区老人クラブの方々と荘内の清掃活動や剪定作業を通じて交流し、地域に根ざした施設となるよう努めます。

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
利用者実人員		7,801人	17,670人	19,000人
利用内容	各種相談等事業	4,538人	11,000人	12,000人
	教養の向上に関する事業	3,560人	1,190人	1,500人
	レクリエーション等の事業	2,985人	11,300人	12,000人

(利用内容は重複あり)

※新型コロナ対応 令和元年度見込合計 330人下方修正済

倉敷児童館

倉敷北児童センター

水島児童館

児島児童館

玉島児童館

真備児童館

児童館は、健全な遊びを通して児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする施設です。

少子化社会にあって、児童が心身ともに健やかに育つための環境づくりを行うとともに楽しくふれあえる場、安心・安全に過ごせる居場所を提供し、児童福祉の向上に努めます。

また、児童館の適正な管理及び円滑な運営を図るため「倉敷市児童館運営委員会」を開催し、幅広い視野での見識と情報収集に努め、より良い内容の事業を実施します。

その他、地域組織活動（母親クラブ等）を中心に地域住民や関係機関と連携を図り、協力して活動します。また、各地域の子育て環境に対応し、「おでかけ児童館」事業の拡充に取り組みます。

〔主な事業内容〕

（1）児童館で共通に取り組む事業

ア 児童福祉週間の一環として、各児童館の特色を活かした行事「ごー！ごー！！じどうかん」をそれぞれの地域の現状に応じた形で行い、子どもたちが楽しく参加できる機会をもつように努めます。

イ 各児童館が「おでかけ児童館」事業として、地域のイベントや親子クラブ、放課後児童クラブ等へ出向き、工作や遊びの提供をします。

さらに、市の生涯学習課と連携して、小学生を対象とした放課後子ども教室でも実施することで、児童館を利用しにくい地域での遊びの支援に努めます。

また、6児童館合同で「キッズカーニバル」を開催し、「スポーツフェスティバル」「プラザまつり」「倉敷市こどもまつり」にも参画します。

（2）遊びによる子どもの育成に関する事業

ア 親子や地域の人とのふれあい、交流ができる季節の行事の実施

イ 体力増進活動の促進（バスケットボール、卓球、バドミントン、一輪車等）

ウ 文化、創造活動、食育の促進（こま・けん玉、工作、クッキング等）

（3）子ども同士の交流及び日常生活の支援に関する事業

ア 子どもに安全な居場所を提供するとともに、健康及び児童館での気になる様子について、必要に応じ保護者や学校へ連絡をします。

イ 年齢を問わず、交流やグループ遊びなど、様々な活動に自発的に取り組めるよう

支援します。

(4) 保護者の子育て支援に関する事業

ア 子どもと保護者が、自由に交流できる場所や子育てに関する情報を提供し、親子のふれあい活動を行います。

イ 子どもの発達上の課題について、関係機関と連携を図り、気軽に相談できるような子育て支援を行います。

ウ 児童虐待予防に取り組み、保護者の子育てへの不安や課題には関係機関と協力して継続的に支援し、必要に応じて市や児童相談所、学校や幼稚園、保育園と連携して対応に努めます。

(5) 地域の健全育成の環境づくりに関する事業

ア 児童館活動の内容を児童館だよりや広報くらしき、ホームページ、ケーブルTV、新聞を通じて情報提供に努めます。

イ 地域の様々な子どもの育成活動に協力するなど、児童館活動に関する理解や協力が得られるように努めます。

ウ 地域組織活動（母親クラブ）の育成を支援し、その協力を得ながら、地域の子どもの健全育成を推進します。

(6) ボランティアの育成に関する事業

ア 児童館を利用する子どもが児童館や地域社会で自発的に活動できるよう支援し、ボランティアとして活動できるように育成や援助を行い、児童館との繋がりが継続できるようにします。

イ 地域住民がボランティアとして児童館の活動に参加できる場を提供し、児童とふれあう機会を積極的にもうけます。

また、学生ボランティアや実習生を積極的に受け入れ、児童や地域の人とふれあう機会を設け、次世代育成に努めます。

(7) 配慮を必要とする子どもへの支援に関する事業

ア 子どもが互いに協力しながら活動できるよう活動内容や環境について配慮し、悩みや問題を抱える子どもには適切な支援をし、児童館が安心できる居場所となるようにします。

イ 他機関との連携を深め、子育て相談や不登校児への支援を行います。

(8) 倉敷北児童センターの体力増進指導に関する事業

遊びやクラブ活動（運動を主とする。）を通して体力増進を図ることを目的として、子どもが運動に親しむ習慣を形成します。

また、体力増進指導を通して子どもの社会性を伸ばし、心と身体の健康づくりを図ります。

(9) 玉島児童館の地域子育て支援拠点事業（連携型）

玉島児童館3階に常設しているつどいの広場では、おおむね3歳までの児童及び保護者を対象として、親子が気軽に利用できる交流の場の提供や、親子間の交流を深める取組み等の地域支援活動をします。

子育て等に関する相談や援助、地域の子育て関連情報の提供、子育て支援に関する講習等を実施します。

(10) 自主事業

- ア 小学生の異年齢交流として「ふれあいタイム」を実施し、様々な年齢の人たちとの交流を通して、豊かなコミュニケーションを育むことができる機会を設けます。
- イ 各児童館で実施している「おもちゃバンク」の周知を図り、地域の資源であるおもちゃの再利用に努めます。
- ウ 地元の中・高校生の職場体験や夏のボランティア体験事業、大学生の実習、インターンシップ等を積極的に受け入れます。
- エ 事業団職員を講師とし、児童や保護者を対象とした「体操教室」や「育児相談・身体計測」、「福祉体験」等を実施するとともに、さらに利用者のニーズに応えられる企画の実施に努めます。また、要望により児童館職員も他施設に出向き、子育て支援や交流等をします。
- オ 異年齢の児童が気軽に集える遊び場を充実させるために、幼児親子クラブや小学生以上の体験クラブ等の実施方法を見直します。

(11) 各館で重点的に取り組む事業

ア 倉敷児童館

建て替えに伴う仮運営期間中のため、各地域へ出向いての「おでかけ児童館」事業に重点を置くとともに、館内の利用者も安心して遊べる環境づくりに努めます。

イ 倉敷北児童センター

地域組織と連携して行うふれあい行事の内容を見直し、児童が楽しみながら世代間交流ができるよう努めます。

ウ 水島児童館

乳幼児親子を対象とした「おひるねアート」や「手形&足形をとろう」等の行事を実施し、保護者同士の交流の場が充実できるよう努めます。

エ 児島児童館

こまやけん玉、皿回しなどの昔遊びを通して、地域の人々とふれあいながら、技の伝承を行うとともに、交流の場となるよう努めます。

オ 玉島児童館

小学生が興味をもって取り組めるような遊びの提案や行事の企画、おもちゃの導入を図ることにより、利用者の満足度が向上するよう努めます。

カ 真備児童館

地域のイベントに参画したり、放課後児童クラブと連携したりすることにより、児童館が元の場所で再開したことを広く知ってもらえるよう努めます。

長期にわたり日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける在宅の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者及びその家族等の方々に対し、日常生活の支援、相談・情報提供、在宅福祉サービスの利用援助等を行い、自立助長、社会復帰及び社会参加を促進し、障がい者の福祉の増進を図ります。

これらの目的を達成するため、関係機関、団体等との緊密な連携を図りつつ、児島、玉島、水島の各施設の持つ機能を最大限活用し、事業の充実に努めます。

また、指定相談支援事業所として特定相談支援事業、障害児相談支援事業を実施します。

〔主な事業内容〕

(1) 日常生活支援

障がい者やその家族等に憩いの場を提供することにより、集団活動を通して社会性を高めるとともに、余暇活動を通して生活の質の向上を図ります。

図書、囲碁・将棋、各種ゲーム等を備えた、くつろいで過ごせる快適な環境を整備するとともに、卓球、パソコン、カラオケ、簡単クッキングの各種教室やバス旅行、また、季節に沿った花見会やクリスマス会などの季節行事など、利用者の要望に添った自主事業の充実に努めます。

(2) 在宅福祉サービスの利用援助

福祉サービスの情報提供、利用助言、申請手続きなどの援助を行います。

(3) 相談・情報提供

電話、面談、訪問等により、住居、就労の問題や日常的な個々の悩み、不安などについて相談を受け、本人や家族の意思を尊重し、障がい者が地域社会の中で自立した生活を営んでいけるよう、相談や助言、情報提供などの支援に努めます。

また、携帯電話を活用し、障がい者支援センターの閉館日、時間外についても、緊急を要する相談対応できるよう努めます。

そして、必要に応じて福祉サービスの調整など関係機関等との連携を図りながら、生活基盤の確立と社会生活を支援します。

機関紙「はばたき便り」及び行事予定表の発行や、手話通訳、ピアカウンセリング等、利用者の状況に合わせた支援の充実に努めます。

(4) 特定相談支援事業及び障害児相談支援事業

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」及び「児童福祉法」に基づく、特定相談支援事業及び障害児相談支援事業を行います。

指定相談支援事業所として、サービス等利用計画等が必要な障がい者（児）への支援に積極的に取り組むとともに、制度の円滑な推進が図れるよう情報提供や他の指定相談支援事業所への紹介などに努めます。

(5) 地域交流・啓発活動

障がい者の自主的な活動を促進し、地域住民とふれあい支え合える場を広げるため、地域で行われる行事に参加するとともに、「はばたきふれあい祭り」などの行事への地域住民やボランティアの参加を促進します。

また、障がい者、家族、地域住民、関係団体及びボランティアの方々が、いつでも気楽に交流できる地域に開かれた場を提供するとともに、障がい者支援センターのPR活動にも努めます。

(6) 共通重点項目

ア 障がい者支援センターについて市民の認知度を高めていくため、イベント開催時のポスター掲示、チラシ配布や、関係機関等を通じて市民への周知に努めます。

イ 日常のサロン活動やイベント等の実施にあたり、地域内の各学校や団体へ参加依頼するなどボランティアの参加促進・継続に努めます。

ウ 地域内の指定相談支援事業所やその他の関係機関、行政との連携を強化することにより、様々な面から総合的な支援が提供できる体制づくりに努めます。

(7) 障がい者支援センター別の重点項目

ア 児島障がい者支援センター

日常生活支援では、利用者の意向や要望を反映した季節行事やイベントを新たに開発したり、現行のイベントの内容を見直すなどにより、充実した日常生活支援の実施に努めます。

また、地域の相談支援事業所として相談支援体制の充実を図るとともに、関係機関との連携を緊密に行い個別のニーズに応じた支援に努めます。

イ 玉島障がい者支援センター

サロン事業や季節行事等の実施にあたっては、利用者から要望、意見等を出してもらうことで参画意識の醸成を図るとともに、参加者のニーズを反映した事業推進に努めます。

また、利用者のニーズに沿った適切な支援を推進するため、関係機関との緊密な連携を図るとともに、ケア会議の開催に努めます。

ウ 水島障がい者支援センター

水島障がい者支援センターが安心して憩える場所となるよう、利用者と職員との定例会を通して意見交換を図るとともに、定例行事や季節行事では、多くの利用者に参加してもらえるよう、利用者の視点に立ったより良い企画・運営に努めます。

また、地域に根ざした障がい者支援センターとして、関係機関と連携して、個々のニーズに応えられるよう、より良い支援に努めます。

(8) その他

ア 倉敷地域自立支援協議会の円滑な運営に資するよう、ケア会議、専門部会、くらしきフォーラムの開催などに積極的に参画します。

イ 関係福祉団体等との連携を図り、障がい者支援センターの行事への参加協力を進めていくとともに、会議室等の利用提供を行います。

〔障がい者支援センターの利用実績と目標〕

(1) 児島障がい者支援センター

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
延利用者数 (人)	精神障がい者	9,547人	8,500人	9,000人
	知的障がい者	3,745人	3,800人	3,850人
	身体障がい者	1,584人	1,500人	1,550人
	ボランティア等	1,829人	2,200人	2,000人
	合 計	16,705人	16,000人	16,400人
相談件数 (件)	精神障がい者	9,553件	9,200件	9,400件
	知的障がい者	1,891件	2,300件	2,200件
	身体障がい者	1,572件	1,350件	1,400件
	合 計	13,016件	12,850件	13,000件
特定相談計 画策定 (件)	精神障がい者	30件	20件	30件
	知的障がい者	11件	18件	20件
	身体障がい者	12件	12件	15件
	合 計	53件	50件	55件

(2) 玉島障がい者支援センター

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
延利用者数 (人)	精神障がい者	7,002人	6,600人	6,600人
	知的障がい者	3,702人	3,800人	3,900人
	身体障がい者	1,379人	1,450人	1,500人
	ボランティア等	699人	1,900人	2,000人
	合 計	12,782人	13,750人	14,000人
相談件数 (件)	精神障がい者	4,757件	4,550件	4,700件
	知的障がい者	1,424件	1,450件	1,500件
	身体障がい者	874件	900件	900件
	合 計	7,055件	6,900件	7,100件
特定相談計 画策定 (件)	精神障がい者	24件	19件	20件
	知的障がい者	19件	8件	10件
	身体障がい者	10件	3件	5件
	合 計	53件	30件	35件

(3) 水島障がい者支援センター

区 分		H30年度実績	R元年度見込	R2年度目標
延利用者数 (人)	精神障がい者	8,184人	7,300人	8,300人
	知的障がい者	5,456人	6,900人	5,400人
	身体障がい者	977人	550人	1,000人
	ボランティア等	2,576人	3,250人	2,600人
	合 計	17,193人	18,000人	17,300人
相談件数 (件)	精神障がい者	5,303件	5,150件	5,500件
	知的障がい者	3,998件	4,400件	4,000件
	身体障がい者	543件	250件	600件
	合 計	9,844件	9,800件	10,100件
特定相談計 画策定 (件)	精神障がい者	25件	28件	35件
	知的障がい者	23件	34件	30件
	身体障がい者	9件	3件	10件
	合 計	57件	65件	75件

14. 在宅福祉課

在宅福祉課

(1) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

介護を必要とする高齢者や障がい者の方が、住み慣れた家庭や地域において可能な限り自立した生活を送り続けていくことができるよう、介護保険制度等に基づく指定事業所として、ホームヘルパーを派遣し、生活全般にわたる援助を行います。

また、ヘルパーの研修等に積極的に取り組み、介護サービスの質の向上に努めるとともに、居宅介護支援事業所等の関係機関へ空き情報の提供を行うなど事業PRを効果的に実施し、新規利用者の確保に努めます。

さらに、入院中の洗濯や家族が不在時の見守り等の介護保険対象外の介護サービスにも力を入れ、利用者の方々が安心して快適な生活が送れるよう支援します。

利用者数（1か月当たりの平均）

（人）

区分	年度	倉敷			児島			合計		
		30 実績	01 見込	02 目標	30 実績	01 見込	02 目標	30 実績	01 見込	02 目標
訪問介護		64	57	46	69	57	47	133	114	93
総合事業訪問介護		69	62	50	21	20	17	90	82	67
居宅介護, 重度訪問介護		41	48	38	27	24	20	68	72	58
移動支援事業		7	6	6	2	3	3	9	9	9
すくすく育児ヘルパー派遣事業		5	4	4	1	1	1	6	5	5
自主訪問介護事業		6	6	6	2	3	3	8	9	9
合計		192	183	150	122	108	91	314	291	241

※ 平成30年度の合計実績には、廃止した玉島ホームヘルプステーションの実績を除いています。

(2) 居宅介護支援事業

介護保険制度に基づき、居宅介護支援事業者の指定を受け、ケアマネジャーがケアプランの作成等の業務を行います。

公正中立の事業所として、引き続き利用者本位のサービス向上に努めます。

また、利用者増加に向け関係機関との連携強化を図ります。

利用者数（1か月当たりの平均）

（人）

区分	年度	倉敷			児島			合計		
		30 実績	01 見込	02 目標	30 実績	01 見込	02 目標	30 実績	01 見込	02 目標
要介護1		33	41	36	62	64	70	95	105	106
要介護2		29	39	34	56	65	70	85	104	104
要介護3		17	19	17	34	39	41	51	58	58
要介護4		10	18	16	12	16	17	22	34	33
要介護5		7	11	10	11	8	13	18	19	23
合計		96	128	113	175	192	211	271	320	324

※ 平成30年度の合計実績には、廃止した玉島居宅介護支援センターの実績を除いています。

（3）実習生受入れ・講師派遣事業

ア 介護福祉士やヘルパーの資格取得のための実習について、高校、短大、専門学校等からの依頼に基づき、実習生をホームヘルプステーションで受け入れます。

令和2年度見込 2校，6人（令和元年度実績2校，6人）

イ 介護福祉士やヘルパーの資格取得のための講演について、高校、短大、専門学校等からの依頼に基づき、講師を派遣します。

令和2年度見込 派遣講師1人（派遣先1校，40人）

（令和元年度実績 派遣講師1人（派遣先1校，40人））

ウ 介護支援専門員の資格取得のための実習について、岡山県社会福祉協議会からの依頼に基づき、実習生を受け入れます。

令和2年度見込 2人（令和元年度実績2人）

（4）要介護等認定調査事業

介護保険認定調査及び障がい支援区分認定調査を受託し実施します。

ア 介護保険認定調査 令和2年度見込37件（令和元年度見込37件）

イ 障がい支援区分認定調査 令和2年度見込213件（令和元年度見込213件）